

青峰小学校の今後のあり方について

- ☆ 12月 7日（水） 19時00分から
- ☆ 12月13日（火） 18時30分から
- ☆ 12月18日（日） 10時00分から

令和4年12月 久留米市教育委員会



【問い合わせ先】

久留米市教育委員会 教育部学校教育課 学校規模対策チーム

TEL : 0942-30-9217 / FAX : 0942-30-9719

Email : gakkyo@city.kurume.lg.jp

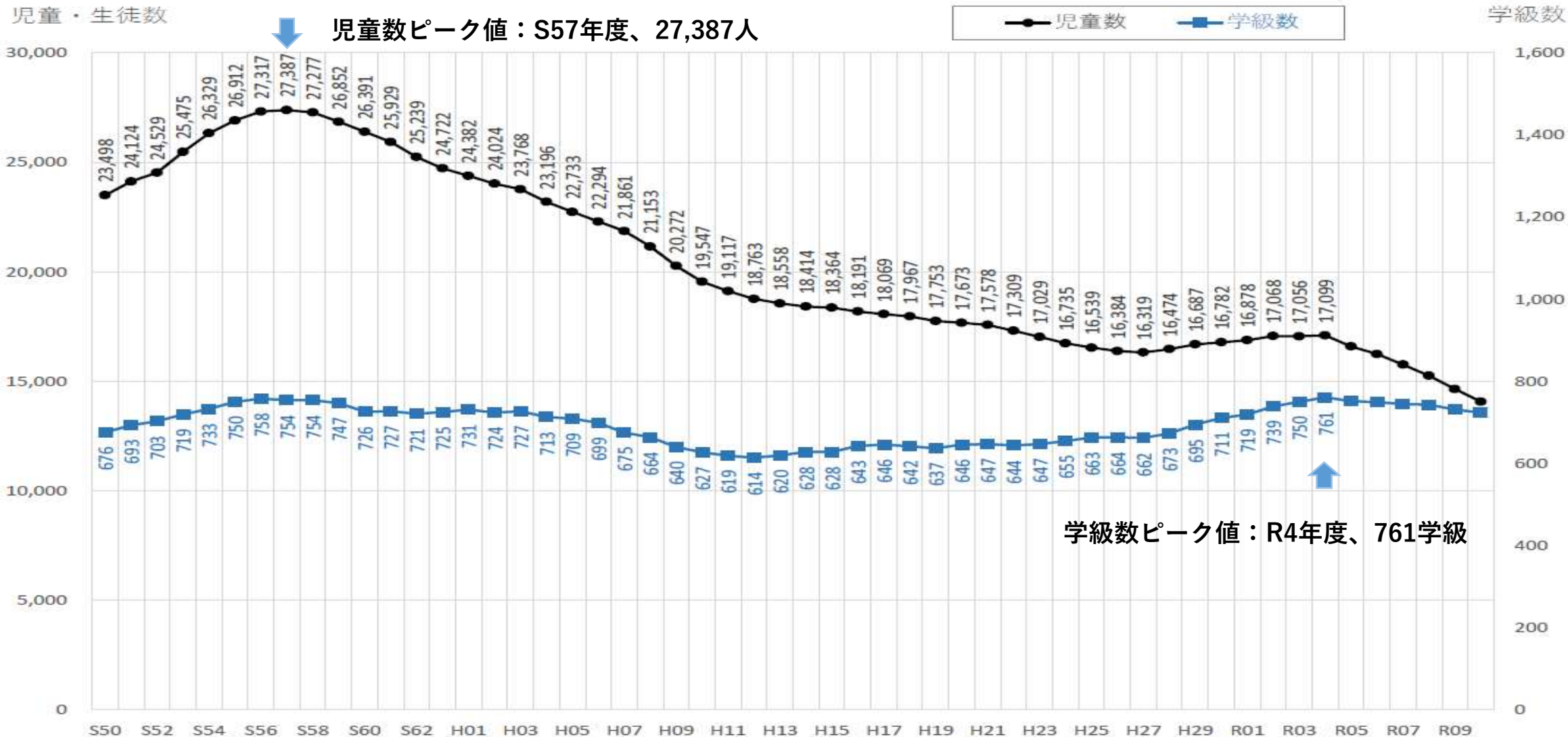
もくじ

- 1 児童数・学級数の状況 . . . 1～3ページ
- 2 複式学級について . . . 4～7ページ
- 3 これからの時代に求められる教育 . . . 8～11ページ
- 4 久留米市立小学校小規模化対応方針 . . . 12ページ
- 5 久留米市立下田・浮島・城島小学校統合の検証結果 . . . 13～16ページ
- 6 まとめ（総括） . . . 17ページ

1 児童数・学級数の状況



【久留米市】 児童数・学級数の推移と推計(昭和50年～令和10年)



●未就学児の年齢別人口数 (R4.5.1現在)

R4年度の年齢	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳
入学予定年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
人口数	2, 6 9 5 人	2, 7 3 6 人	2, 6 6 2 人	2, 6 2 5 人	2, 3 8 9 人	2, 3 4 7 人

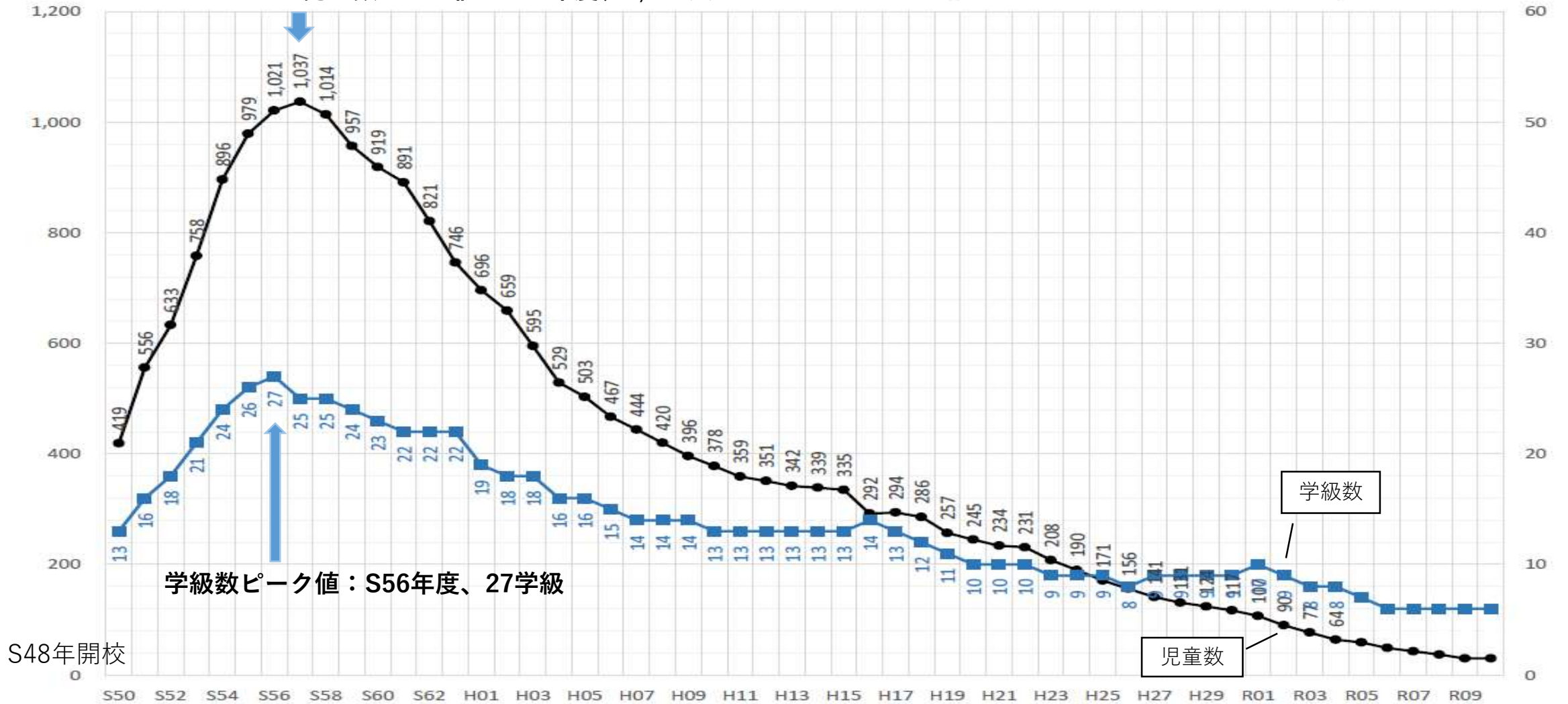
【青峰小学校】 児童数・学級数の推移と推計(昭和50年～令和10年)

児童・生徒数

児童数ピーク値：S57年度、1,037人

● 児童数 ■ 学級数

学級数



学級数ピーク値：S56年度、27学級

S48年開校

児童数

学級数

● 未就学児の年齢別人口数 (R4.5.1現在)

R4年度の年齢	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳
入学予定年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
人口数	9人	10人	8人	7人	5人	8人

【青峰小学校】 今後の児童数・学級数の見込み

●R4年度の児童数

※特別支援学級を含む

R4.5.1現在

1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		計
7		9		10		11		16		11		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
2	5	7	2	8	2	5	6	8	8	8	3	

●児童数・学級数の推計

※特別支援学級を含まない

*網掛け部分=複式学級

【R4年度の人数で推計】

上段:学級数
下段:児童数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
4年度	1	1	1	1	1	1	6
	7	9	9	11	12	7	55
5年度	1	1		1	1	1	5
	9	7	9	9	11	12	57
6年度	1	1		1	1	1	5
	10	9	7	9	9	11	55
7年度	1	1	1		1	1	5
	8	10	9	7	9	9	52
8年度	1	1	1	1		1	5
	7	8	10	9	7	9	50
9年度	1	1		1	1		4
	5	7	8	10	9	7	46
10年度	1	1		1	1	1	5
	8	5	7	8	10	9	47

【過去5年間の増減率を加味して推計】

上段:学級数
下段:児童数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
4年度	1	1	1	1	1	1	6
	7	9	9	11	12	7	55
5年度	1	1		1	1	1	5
	8	6	8	9	10	12	53
6年度	1	1		1		1	4
	9	7	5	8	8	10	47
7年度	1	1		1		1	4
	7	8	6	5	7	8	41
8年度	1	1		1		1	4
	6	6	7	6	4	7	36
9年度	1	1		1		1	4
	4	5	5	7	5	4	30
10年度	1	1		1		1	4
	6	4	4	5	6	5	30

※過去5年間に1学年が上がるごとの児童数の増減値の平均を増減率として算出。

2 複式学級について



●複式学級とは

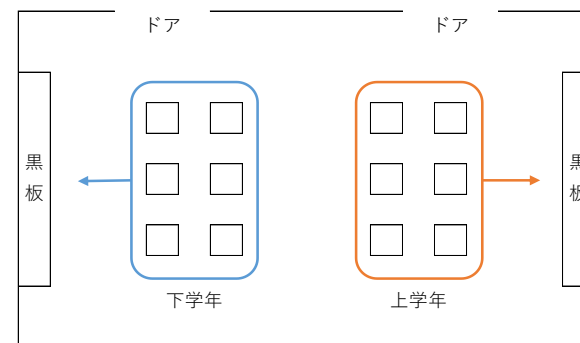
- ① 隣り合う2つの学年の児童数の合計が、16人以下の場合に編制するものです。
(※第1学年を含む場合は、8人以下。)

「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律第3条」

- ② 2つの学年を1人の教員が受け持ち、1教室内で1コマ45分の授業を同時に行います。

主要科目（国語・算数・理科・社会など）は、次のページのような指導を行います。その他の科目（図工や音楽など）は2つの学年とも同じ内容で指導します。

【例】教室内環境



- ③ 図工や音楽などは、2年間で両学年の学習内容を完結することになります。

【例】R5年度、2年生と3年生が複式学級の場合

3年生は既に2年生の学習を終えていますので、R5年度は3年生の内容を勉強します（学齢どおり）。2年生は学齢より上の3年生の内容の勉強をすることになります。R6年度は、3年生になりますが、学齢より下の2年生の内容を勉強することになります。

（*2年生はR5年度とR6年度で、順番は違いますが、2年生と3年生の学習内容を終わります。）

複式学級について

●複式授業の実際

担任による指導（直接指導）



自分たちでの自学自習（間接指導）

- * 授業時間としては45分としても、直接指導は、45分授業の中でおおむね半分の時間となります。
- * 担任は、2学年の授業の準備が必要になるとともに、授業には特別な技術が必要となります。

3年算数「時刻と時間」

4年算数「小数のたし算とひき算」

学習活動	形態	学習活動
1. 本時の課題を知る。 みんなは午前8時35分に学校を出て午前9時10分に海につきました。かかった時間はどれだけのでしょう。	直接 間接	1. 既習事項の復習をする。
2. 課題を考え、プリントに書く。 ・模型の時計を使って考える。 ・教室の時計を使って考える。	間接 直接	2. 本時の課題を知る。 海まつりの休けい2回のうち、1回目にジュースを0.50、2回目に0.20をもらいました。あわせて何円もらったでしょう。どちらがどれだけ多かったですか。
3. 考えたことを説明し、答えを確認する。	直接 間接	3. たしざんとひき算の計算の仕方を考える。 ・5と2で7になる。0.をつけて0.7 ・0.1が5と2とで0.7
4. 時刻を求める問題を考える。 みんなは午後1時50分から泳ぎ始めて、25分間海で遊んでいました。遊びが終わった時刻は何時何分でしょう。	直	4. 考えた計算の仕方を発表する。
5. 答えを確認し、練習問題をやる。	直	5. 練習問題をやる。

複式学級について

●複式学級になった場合の教職員構成

学級数	校長	教頭	主幹教諭	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6学級以上	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5学級	○	○ 教頭か主幹教諭の どちらか配置		○	○ (複式学級)		○	○	○
4学級以下	○	× 教頭が配置され ない	○	○	○ (複式学級)		○ (複式学級)		○
				○ (複式学級)		○ (複式学級)		○ (複式学級)	

複式学級について

●複式学級の良さと課題

*一般的に、以下のような良さと課題があるとされています。

	子ども	学校
よ さ	<p>【学習面・生活面】</p> <p>◎ 学年を越えた学び合い（異学年交流）</p>	<p>【学校経営・運営】</p> <p>○ 職員間の情報共有が図りやすい</p>
課 題	<p>【学習面・生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 直接指導の時間が半分 ● 声が錯綜し、集中した学習が難しい ● 集団による話し合いが難しい （多様な考え、深まる思考、言語能力） ● 大きい能力差（異学年・性別） ● 大きな集団での社会的な経験が不足する ● 固定化した人間関係 ● きょうだいで同じクラスになることがある 	<p>【学校経営・運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 相互研修機会の厳しさ（校内研修の限界） ● 経験年数などバランスの取れた職員の配置が困難 ● 教頭の未配置による校務処理の役割分担が過重になる ● 授業に特別な指導技術が必要となる ● 教員体制の厳しさ

3 これからの時代に求められる教育

★ 自ら進んで学ぶ楽しい算数(主体てきな学び) ★ 友だちと話し合って見つける算数(対話てきな学び)

？ ぼんやり
問題

生活の中や算数の中から問題が見つかるのをかいついたくなります。

？ 発見 **どのセットがおとく？**

どれもセットで1000円

かいついたいな
考えたいな
知りたいな
調べたいな

その問題を算数の図や式で表したくなります。「めあて」がうまれます。

③ 計算のしかたを考えよう。

12×4の計算は10と2に分けて考えよう。

10円玉1円玉の数字計算でいいかな。

23×3の計算のしかたはどうすればいいのかな。

くらべたいな
表したいな
話し合いたいな
くふうしたいな
つたえたいな

自分の考えとくらべて友だちの考えのすごかったところをさがします。

④ 2人の考えの同じところを話し合おう。

23×3は23を20と3に分けると、九九を使って計算できます。

23×3 < 3×3=9

20×3=60

たしかめたいな

まとめたことがほかの問題でも使えるかたしかめます。

⑤ 10瓶のジュースを、5人で同じ量ずつに分けます。1人分は、何瓶になりますか。

10瓶のジュースを、5人で同じ量ずつに分けます。1人分は、何瓶になりますか。

⑥ 10瓶のジュースを、5人で同じ量ずつに分けます。1人分は、何瓶になりますか。

やってみよう

次のわり算の答えは、何のたんの九九を使ってとめることができますか。また、答えをもとめよう。

① 8÷2 ② 21÷7 ③ 72÷9 ④ 28÷4 ⑤ 20÷5 ⑥ 56÷8 ⑦ 21÷3 ⑧ 54÷6

学習が進むと、友だちが何を考えているか知りたくなります。自分の考えも友だちに話したくなります。となりどうして、グループで、クラス全体で話し合いをしましょう。

話し合いたいな

半分におる。 もう一度半分におる。

おり目の線は全部同じ場所を通っているよ。

おり目の線の長さはどうなっているかな。

左上の円の中心を見つけ、同じ大きさの円をかいてみましょう

せつめいしたいな

その他

4年生より、3年生の方が本をたくさん読んでいるね。

それは、どうかな。グラフをよく見ると、何ががうとところがありそうだよ。

★ 学習したことをいかにつなげる算数(深い学び)

「もっと知りたい」、「これはできるかな」という気持ちを大切にしましょう。生活の中や算数の中で学びを深めましょう。

深めよう **生活にいかす** **買い物に行こう！**

りくさんはお金とメモを持って、商店がいにおつかりに行きました。

213×3も筆算でできるのかな。

* 新学習指導要領にもとづき、「主体的・対話的で深い学び」につながる構成になっています。

* 正解までの問題の解き方を班ごとに話し合ったり、個々に意見を出し合ったり、というような対話を取り入れた授業が重視されています。

7 かけざんの つかいかた

1 かけざんを つかって つぎの もんだいを ときましょう。

8mずつ はなして 木が うえて あります。1本めから 7本めの ところまで あるくと、なんm あるく ことにな るでしょう。



〔ときかた〕

あるいたのは、木と 木の あいだですから、

$$8 \times 6 = 48$$

こたえ 48m



1 よこの ながさが 7cmの おりがみを、すきまの ないように よこに 8まい ならべました。はしから はしまで なんcmでしょう。



2 1人に 4まいずつ 9人に おりがみを くばりました。あと なんまい あれば 1人に 6まいずつ くばれる でしょう。

3 4人がけの いすが 8つ あります。34人 ぜんぶが すわれる でしょう か。



*問題文を見て、何と何をかけるのかを考えて計算し、早く正しい答えにたどりつく授業が重視されていました。

【参考】『出典』令和4年度 全国学力・学習状況調査より 小6算数 問題 (抜粋)

(4) かいとさんたちは、果汁の割合と果汁の量がわかっているとき、飲み物の量を求めることができるかどうかを考えています。そこで、りんごの果汁の割合が30%で、果汁の量が180 mLのときの飲み物の量を求めることにしました。



果汁が30%ということは、果汁が30 mLのとき、飲み物の量は100 mLですね。



そうですね。私は、果汁の量から飲み物の量を求めるために、表にまとめました。

果汁の量と飲み物の量

果汁の量 (mL)	30	60	90	...	180
飲み物の量(mL)	100	200	300	...	?

上の表を見て、かいとさんは、次のことに気づきました。



果汁の量が2倍、3倍になると、それにもなって飲み物の量も2倍、3倍になることがわかりました。

果汁の量 (mL)	30	60	90	...	180
飲み物の量(mL)	100	200	300	...	?

Diagram showing arrows from 30 to 60 labeled '2倍' and from 60 to 90 labeled '3倍' above the table, and from 100 to 200 labeled '2倍' and from 200 to 300 labeled '3倍' below the table.

*日常生活の場面を例に取りながら、正答に至るまでの考え方を問う内容です。正答だけでなく、その過程も含めて問われています。

ゆうかさんは、かいとさんが気づいたことをもとに、次のように考えました。



ゆうか

下の表のように、果汁の量が□倍になると、それにもなって飲み物の量も□倍になるのではないのでしょうか。このことを使えば、果汁の量が180 mLのときの飲み物の量を求めることができますね。

果汁の量 (mL)	30	60	90	...	180
飲み物の量(mL)	100	200	300	...	?

Diagram showing a curved arrow from 30 to 180 labeled '□倍' above the table, and another curved arrow from 100 to ? labeled '□倍' below the table.

果汁の量が180 mLのときの飲み物の量は、何 mLになりますか。

180 mLが30 mLの何倍かをどのように求めたのかがわかるようにして、飲み物の量の求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

解答例

(4) 【求め方】(例) 果じゅうの量は、 $180 \div 30 = 6$ で、6倍になっています。果じゅうの量が6倍になると飲み物の量も6倍になるので、飲み物の量は、 $100 \times 6 = 600$ で、600mLになります。

【答え】600 (mL)

4 久留米市立小学校小規模化対応方針



「久留米市立小学校小規模化対応方針」の概要

1 策定の趣旨等

将来にわたり義務教育の機会均等、教育水準の維持・向上を図り、**子どもの「生きる力」を育む学校教育を保障する観点から、本市の小規模校の対応に関する基本的な考え方や方向性等を定めたものです。**

2 学校規模の考え方



○教育を充実する観点から**望ましい学校規模** = 1学年が複数の学級で構成される規模

○教育課題の顕在化等を回避するために**必要となる学校規模** = 1学年1学級以上の規模

◎**望ましい学校規模** = 1学年から6学年までの全ての学年が複数の学級で構成される規模
(**全学年でクラス替えができる規模**)

3 対応の方策等

○小規模化対応にあたっては、学校の小規模化に起因する教育課題を十分に踏まえ、**「望ましい学校規模」を目指すもの**とします。

○その対応は、**「学校の統合」を対応の基本方策**とします。

○久留米市において、**最優先の小規模化対応が必要と位置付ける小学校は「既に複式学級が発生し、固定化している小学校」とし、次に「今後、複式学級の発生が見込まれる学校」、「望ましい学校規模を下回る学校」として**います。

○市教育委員会は、小学校の統合を進める際には、**統合校の組み合わせ、統合の方式、統合までの行程、統合の実施時期等の具体案を保護者や地域住民等に提示し、十分な協議・調整等を経て、決定**します。

4 留意事項等

○市教育委員会は、小学校の統合を進める際、統合後の**通学路の安全確保や、状況に応じて通学支援に関する対応を検討**するとともに、児童の環境変化への対応として、**統合前の交流学習や統合前後のスクールカウンセラーの配置等、きめ細やかな配慮や支援**を行います。

○主に市関係部局は、小学校の統合に伴う**地域コミュニティへの配慮や、地域の拠点機能（避難所やスポーツ活動の場など）の継承などの検討**を行います。

5 久留米市立下田・浮島・城島小学校統合の検証結果

久留米市立下田小学校



明治13年 創立

久留米市城島町下田251番地

久留米市立浮島小学校



明治6年 創立

久留米市城島町浮島234番地1

久留米市立城島小学校



明治6年 創立

久留米市城島町城島320番地

久留米市立下田・浮島・城島小学校統合の検証結果報告書【概要】①

1 検証の目的

久留米市で初めての小学校統合となった、下田・浮島・城島小学校統合の事例について、今後の取組に活かしていくために、その成果と課題についての検証を行ったものです。

2 小学校統合後の教育環境に関する検証結果

- 統合前の下田小、浮島小は複式学級校、城島小は3つの学年が単学級となっていたが、統合後は**全学年でクラス替えができる2学級編制**となり、「**望ましい規模**」が確保されました。
- 統合後、**一定の集団規模が確保された**ことで、**友達同士の多様性に触れ合うことができ、切磋琢磨する環境**となっています。
- 小規模校ではできなかった音楽の合唱や体育のボール競技などができるようになるなど、**集団学習の幅が広がり**、多くの友達と成し遂げる喜びも感じるなど、**教育環境が充実**しました。
- 統合前に懸念されていた**児童の不安感**は、「**交流学習**」や**子ども達へのきめ細やかな見守りや指導**などにより解消が図られています。
- 統合によって、教職員全体で16人の削減となりましたが、統合後の城島小では5人増え、**経験や年齢などバランスの取れた職員配置が可能**となりました。
- 全学年が2クラスになり、**授業の進め方など同学年の教員同士で相談し高め合う環境**ができたことで、**指導力が向上するとともに、各種業務分担が可能となるなど、教員の負担も軽減**しています。

3 小学校統合までの進め方に関する検証結果

- 統合の組み合わせに関して**、地域コミュニティの繋がりを重視すべき、中学校区単位で検討すべきといった、**様々な意見が出されました**。
- 統合までの進め方（手順やスケジュールなど）が明示されていないこと**に、**保護者から不安の声が上がりました**。
- コロナ禍で会議の開催等が制限される中、統合決定から統合校スタートまでの期間が約9か月となったことで、**準備期間や周知期間が不足していたとの声**が上げられました。

4 小学校統合に伴う地域活動に関する検証結果

- 校区コミュニティ制度の例外として**各校区コミュニティ組織は従来どおり存続することとなったため、地域活動の枠組みに関わるような大きな影響はありませんでしたが**、統合後に協議・調整が必要となった事業もありました。
- 統合に関する地域の説明会や協議の場では、**学校教育以外にも、地域活動やまちづくりに関して、幅広い分野から多くの意見、質問が出されました。**
- 小学校跡地の利活用については、地域においても関心が寄せられており、城島総合支所が窓口となって、地域との協議を進めています。

5 小学校統合に関する財政効果の検証結果

- 統合に係る一時的な経費として、校舎の改修等で約3,800万円（市の一般財源）を要しましたが、学校運営に係る経常的な経費として、年間約2,400万円の削減が見込まれます。
- 将来的な経費として、起債に係る償還金はあるものの、億単位で必要になる小学校施設の改修費（更新費）が、小学校統合に伴い不要となります。その他にも県が負担する教職員の人件費も削減されます。

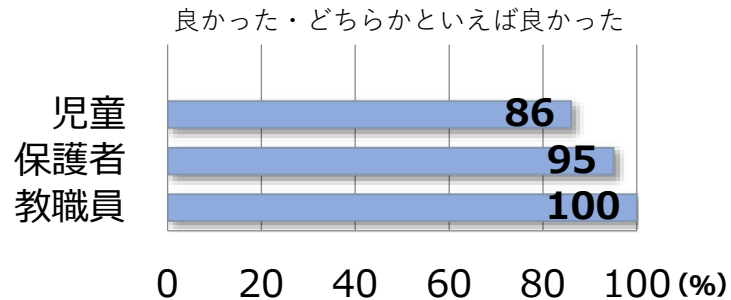
6 総括

- 今回の小学校統合では、**児童の教育環境が向上し、学校運営の充実化が図られるなどの成果が得られた一方で、統合までの進め方や地域活動への対応などでは課題も見られました。**
- 小学校の小規模化はさらに進んでいくと見込んでおり、今後、小学校統合に取り組む際には、**今回の検証結果を活かしながら、より良い教育環境の実現を目指していく必要があります。**

【参考】 城島小学校統合検証「児童・保護者・教職員」アンケート集計結果

アンケート:令和4年3月2日～8日実施

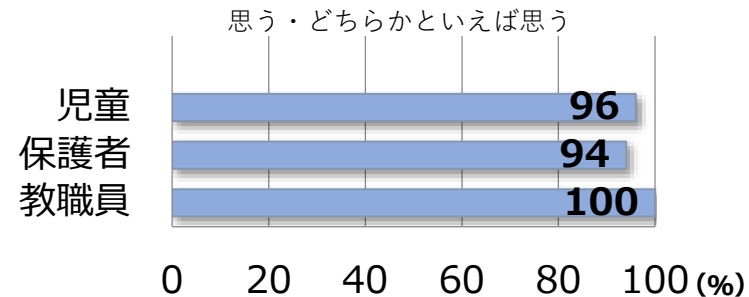
1 学校が一緒になり、クラス替えができるようになったことをどう思いますか。



◆主な理由◆

- 【児童】
 - ・新しい友だちがとてもいい人たちで、明るく話せている。
 - ・いろんなタイプの友だちと仲良くなれて、楽しい。
 - ・仲良くなった友だちと違うクラスになるかもしれないから。
- 【保護者】
 - ・積極的に話しかけて、友だちになろうとする姿が見られた。
 - ・いろいろな性格の子ども同士が触れ合うことが大切な心を作ると思う。
- 【教職員】
 - ・年度当初は、慣れない様子の児童もいたが、割と早い段階でなじめ、対応することができた。
 - ・これまで固定化していた人間関係がリセットでき、新しい人間関係が築けている。

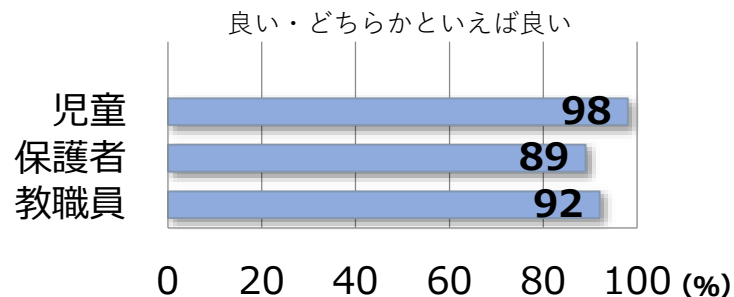
2 人数が増えたことで、友達と触れ合い、切磋琢磨できていると思いますか。



◆主な理由◆

- 【児童】
 - ・勉強でも運動でも友だちの「凄い」と思うことがたくさんあり、自分も負けたくない気持ちになる。
 - ・悲しくなったら声を掛けて励ましてくれる。
 - ・あまり人数が多いのは苦手。
- 【保護者】
 - ・友だちにやさしくしてもらい、自分も相手を思いやる気持ち、協調性が芽生えている。
 - ・友だちの頑張っている姿を見て、自分も良い刺激を受けている。
- 【教職員】
 - ・沢山の友だちの良いところを吸収することができている。
 - ・様々な性格や持ち味の子がいるので、自分と気の合う友だちと仲良くなれている。

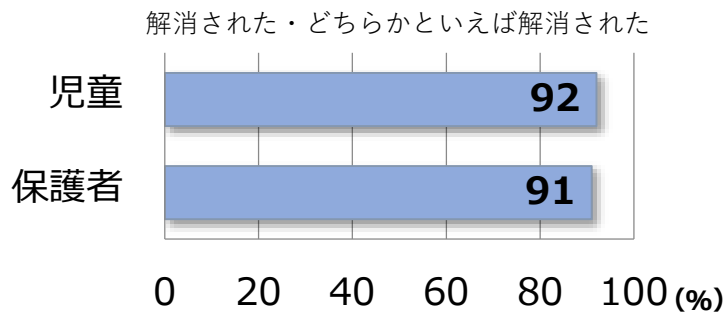
3 小学校が一緒になる前と比べて、今の学習(音楽・図工・体育を含む)について、どう思いますか。(良くなったと思いますか)



◆主な理由◆

- 【児童】
 - ・勉強の時にいろいろな人の意見を知り、自分も頑張ろうと思う。
 - ・友だちが増え、いろいろと協力しながら取り組むことができる。
 - ・図工などいろいろな作品が見られるし、体育は多くのチームでたくさん対戦ができる。
- 【保護者】
 - ・わからないところを友だちと考える様子が見受けられた。
 - ・ライバル心が芽生え、自分の評価を気にするようになった。
- 【教職員】
 - ・一定の人数がいるため、グループでの話し合いや体育での試合など経験できている。
 - ・多様な表現方法があることを知ったり、多くの友だちと成し遂げる楽しさを実感できている。

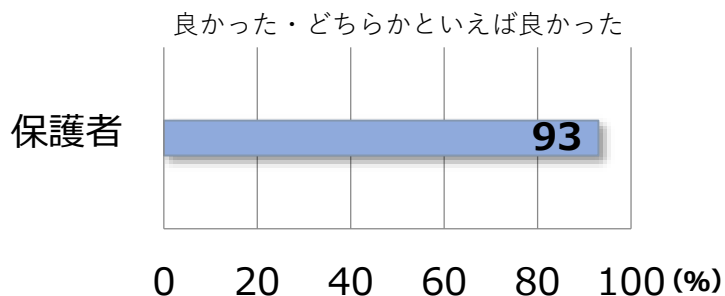
4 学校が一緒になる前の不安や心配は、解消されましたか。



◆主な理由◆

- 【児童】
- ・新しい友だちができるのか不安だったが、すぐに仲良くなれた。
 - ・いじめられたりしたら、助け合いをすることが良くなった。
 - ・クラスが違う友だちとは、まだ全然話せていないし、仲良くできる自信がない。
- 【保護者】
- ・当初は、統合前の学校が良かったと言っていたが、今はそれもなくなった。
 - ・人数が増え、うまく馴染めるか不安だったが、学校や新しい友だちのことを楽しそうに話してくれ、安心している。

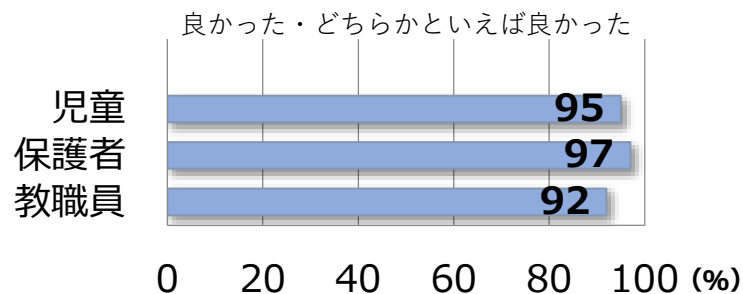
5 いじめや不登校などの対策として、統合前の交流学習や今年度実施のスクールカウンセラーの派遣回数増加などに取り組んでいるところですが、このような子供たちの不安や心配事への対応についてどう思いますか。



◆主な理由◆

- 【保護者】
- ・問題の早期解決にもつながると思うので、良いと思う。
 - ・子どもがお世話になりましたが、すごく助かりました。
 - ・交流学習等で少しずつ慣れることが出来たので、安心して登校できている。
 - ・人数が増えて先生が目が行き届くのか不安なところもありますので、しっかり気を配って子どもたちを見守ってほしい。

6 小学校が統合したこの一年間を振り返り、今はどのように思いますか。



◆主な理由◆

- 【児童】
- ・勉強では多くの意見が聞けるし、いろいろな考え方があると思った。
 - ・同性の友だちが増え、学校生活が楽しくなった。
- 【保護者】
- ・友だちもたくさんでき、いろんな人の意見や考えを知ることができ幅が広がっている。
 - ・中学校に入ってから友だちづくりの不安が少なくなったことは良かったです。
- 【教職員】
- ・多様な考えに出会うことができ、友だちとの関わりや学習活動の幅が広がっている。
 - ・多くの同学年の友だちの中で交流し、成長できる環境は子どもたちにとってプラスになっている。
 - ・良い意味で「公」の場ができ、それは子どもたちの社会性を伸ばすためには必要。

6 ま と め (総 括)



まとめ(総括)

● 青峰小の今後の児童数・学級数の見込み

* 特別支援学級を含まない

上段:学級数
下段:児童数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
4年度	1	1	1	1	1	1	6
	7	9	9	11	12	7	55
5年度	1	1		1	1	1	5
	8	6	8	9	10	12	53
6年度	1	1		1		1	4
	9	7	5	8	8	10	47
7年度	1	1		1		1	4
	7	8	6	5	7	8	41
8年度	1	1		1		1	4
	6	6	7	6	4	7	36
9年度	1	1		1		1	4
	4	5	5	7	5	4	30
10年度	1	1		1		1	4
	6	4	4	5	6	5	30

■ 児童数は減少し、複式学級が拡大・固定化する見込みです。

● 複式学級の良さや課題

【良さ】

- ・ 学年を越えた学び合い

【課題】

- ・ 直接指導の時間が半分
- ・ 集団による話し合いが難しい
- ・ 固定化した人間関係
- ・ きょうだいで同じクラスになることがある
- ・ 教員の特別な指導技術が必要になる
- ・ 教頭未配置による校務処理の役割分担 など

● これからの時代に求められる教育

■ 変化が激しく予測困難な時代において、子どもたちに必要な資質・能力である「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かい合う力・人間性」の育成を図ります。

■ そのためには、多様な価値観を持った子どもが意見を出し合い、折り合いをつけながら、解決策を見いだしていくことが求められており、一定の集団規模が必要となります。

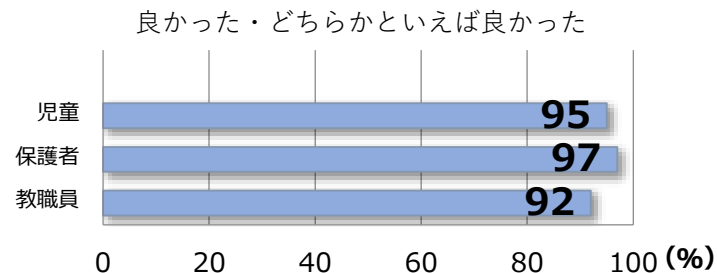
● 久留米市立小学校小規模化対応方針の考え方

■ より良い教育を実現する観点から、学校の統合を行うことによって、望ましい学校規模（全学年でクラス替えができる規模）を目指します。

● 下田・浮島・城島小学校統合の検証結果

(R4.3月調査)

問 小学校が統合したこの一年間を振り返り、今はどのように思いますか。



子ども達のより良い教育環境のためには、統合による望ましい学校規模の実現に向けた検討が必要であると考えています。